

官民共創の新しいまちづくり協議会 議事概要

会議名	第3回伊那弥生ヶ丘高校将来活用 WG			
開催日	2024 年 11 月 7 日(木)			
開催時間	開会	16：00	閉会	18：20
開催場所	伊那市役所 501 会議室			
出席者				
協議会・WG メンバー	平賀裕子氏、山本風音氏、須永理葉氏、吉岡秀幸氏、大塚純氏			
事務局・職員	商工観光部：柴商工振興課長、林課長補佐 教育委員会：唐澤学校教育課長、伊藤課長補佐 地域創造課：浦野係長			
関係者				
欠席者	—			
議事	1. プロジェクトの規模と現状について 2. 企業との協働プレゼン資料への意見について 3. 地域ブランドの共有 4. 全体会の報告について 5. 次の WG の内容について 6. 今後のスケジュール			

議事項目	概要	次のステップ
1、プロジェクトの規模と現状について		
	○WG メンバー →高校の敷地について図で説明。 ・高校の敷地はとにかく広い。 ・空間としての課題は、北側道路沿いの景観。 ・まちづくりでは、北側の部分を何とかしないとやっていることがまちにしみ出ていかない。 ・例えば学びを行う場所とオフィスが入る場所を入れる場合、規模的に合わないから別にした方がよい。 ・企業などに提案する場合、家賃、維持費などの経費を知りたいと思う。それを出すためには解体費とか整備費とか補助金のこととかを出しておく必要がある。 ・伊那市のコンセプトを出して、来てほしい人に届けていきたい。 ・とにかく超ビッグプロジェクト。全体をいじるなら大きな予算が必要となる。市の予算的イメージはどのくらいになるか。 ○WG メンバー	・市の想定している予算規模

	・必要な校舎を選別してターゲットを絞ってプレゼンしていくことは同感。 ○WG メンバー ・思った以上に広い。 ・可視化してもらうと、議論が重ねやすく、とてもわかりやすい。 ○WG メンバー ・解体費、整備費などの負担はどうなるのか。市が必要な場所だけを使うことは可能なのか。 ・使えそうな国からの補助金などはあるのか。 ・「森、学び、暮らし、ZEB」はベースとなるコンセプトで、もっと具体化していきたい。 ・この図が独り歩きしていくのが怖い。どの段階で市民との対話の場に持っていくか。 ○WG メンバー ・オフィスの家賃などから施設の規模を逆算していく方法もある。 ○WG メンバー ・この場所を利用する売りポイント、学びとのつながりといったイメージを固めて、売り込みをしていくことが大事。 ○WG メンバー ・長野県の職員にもワーキングに入ってもらったらどうか。 ・所有者である長野県にも加わってもらいたい。 ○WG メンバー ・デジタル田園都市国家構想交付金地方創生拠点整備タイプを活用できる部分もある。 ・みんなで使える３Ｄプリンターや大型プリンター、大型モニター付きの個室などがあると思う。	・解体費、整備費の負担 ・事務局へ
2、企業との協働プレゼン資料への意見について		
どういうことを意識して作ったか。	○WG メンバー ・企業にアピールできる項目を示した。前回の会議でも「暮らし」「学び」「仕事」はセットという意見があった。 ・「働く場」をつくることで、「暮らし」、「学び」、「仕事」の３点セットで伊那市への移住を後押しできる。 ・なるべくお金をかけずに少ないスペースでやりたい。 ・一つの棟全てではなくて、１階だけでもいいと思う。一つの教室をそのまま仕切って使ったという	

	案となる。電源やネット回線など必要なものは整備する。トイレは共同。 ・賃料の根拠はないが、市の類似施設を参考に見積もった。 ○WG メンバー ・「住まい」というのも入れてほしい。 ○WG メンバー ・企業によって段階が違ってくるが、まずは大きな規模で入ってくれる企業を優先していきたい。伊那市のプロジェクトと一緒にビジョンを実現してもらえ企業を探したい。 ・いろんな視点からこの街の魅力を洗い出す。他の街と比べてみるのもよい。この地域に来て何かやることに大きな魅力があることを伝えたい。 ○市から報告 ・県の施設であり、活用案も一定の方向性が決まっていな段階で WG が営業に行くことはない考える。 ・営業するとした場合の提案まででお願いしたい。 ○WG メンバー ・現在、市からオフィス系の企業に声をかける機会はあるのか。 ・企業向けに移転をプロモーションしていくことはやってもいいのでは。 ○市から報告 ・現状、市では問い合わせがあっても、市有施設は埋まってい入ってもらうスペースがない。 ・新たにオフィススペースができれば案内することはできる。 ○WG メンバー ・WG ではプランの部分を進める。 ○WG メンバー ・活用について問い合わせのあった企業があれば、県にも対応できるよう準備しておいてもらいたい。 ○WG メンバー ・森と学びをキーとして、その拠点としての活動について発信していけば、興味を持った企業が来てくれることも。 ○WG メンバー ・今度、教室の広さでのオフィススペースのイメージ図を作ってきたと思う。	
--	---	--

3、地域ブランドの共有		
	○市から報告 ・前回ステイトメントをひと月のうちにと話したが、まだ決まっていない。 ・大事な視点は、根っこの部分に訴求できるもの。多様性のある生き抜ける力、学びつづけられる力、地域のくらしを守り続ける、継続することもチャレンジということが表現できればと考えている。	
4、全体会の報告について		
	○WG メンバー ・前回決めた進め方のフローを報告する。 ○WG メンバー ・懸念点を投げかける。 ・はっきりした部分とぼんやりしている部分がある。 ○WG メンバー ・個人的には市民との対話の場の開催の問い合わせが多い。市民に動きが見えていない。 ・本 WG では、弥生の将来活用について「市民との対話の場」を設けていくと報告したい。 ・「市民との対話・協働の場づくり」のイメージの共有をする。 ・開催方法など全体会での方向性を聞いてみたい。 ・まずは、参加してくれる人の顔合わせ、つながりを作るための場づくりをしたい。 ・市民との対話に参加したい人からすれば、話し合いの状況が見えない分、その期間は取り残された感を持っている。 ・とりあえず一回開催していきたい。 ○WG メンバー ・一回やったら続けていかなければならない。 ・対話の場は、このプロジェクトを成し遂げるために意見を聴くことが目的 ・まだ自分たちもはっきり方向性が決まっていない中で、意見を聴くという無責任さにもなってしまう。 ○WG メンバー ・やりたい思いをあげてもらっても、この WG としてその先に果たせることが決まっていない。 ・顔合わせだけの場であれば、急いで開く必要はないのでは。	・次回全体会では前回決めた進め方について説明 ・市民との対話の場の開催

	・本 WG だけでなく、全体に関わることなので、次の全体会では、市民との対話を開くことについて投げかけてみることでどうか。 ・本 WG が対応しなければならないことは弥生の場所で何をするかということだから、今は、あの場所で行えることについて何も話せることはありませんということになる。	について、全体会で協議してもらおう。 ・市のコンセプトを待って、施設コンセプトを検討
5、次の WG の内容について		
	OWG メンバー ・次の WG では、「森と学び」や「対話の場のイメージ」についてディスカッションしたい。 ・このグループでは叩き台資料があった方が進む気がするので、自分の意見など材料を提示いただきたい。 OWG メンバー ・森と学びを中心に屋根のない博物館をセットで学びを考えるというプレゼン資料を準備するので共有する。 OWG メンバー ・1 教室で何人くらいのオフィスが作れそうかの資料を作ってくる。 OWG メンバー ・スケジュールで何をやっていくかを決めていかないとけない。	・次回の WG の主題について ・スラックで資料共有
6、今後のスケジュール		
・次回の日程	・11 月 21 日（木）18：00 501 会議室	全体会